

◆岩沼市の人口

被災前 44,187名 (H22.10.1)
被災後 43,751名 (H25.2月末)

◆被災状況 平成25年 3月11日現在

- 人的被害
 - 死者 186名
 - 行方不明者 1名
- 物的被害
 - 浸水範囲面積 29 km²
 - 全壊 736棟
 - 半壊 1,606棟
 - 一部破損 3,086棟

出典：消防庁災害対策本部 平成25年3月26日発表
平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)被害報より

位置図



被災状況(岩沼市)平成23年5月18日撮影
出典：国土地理院HPより

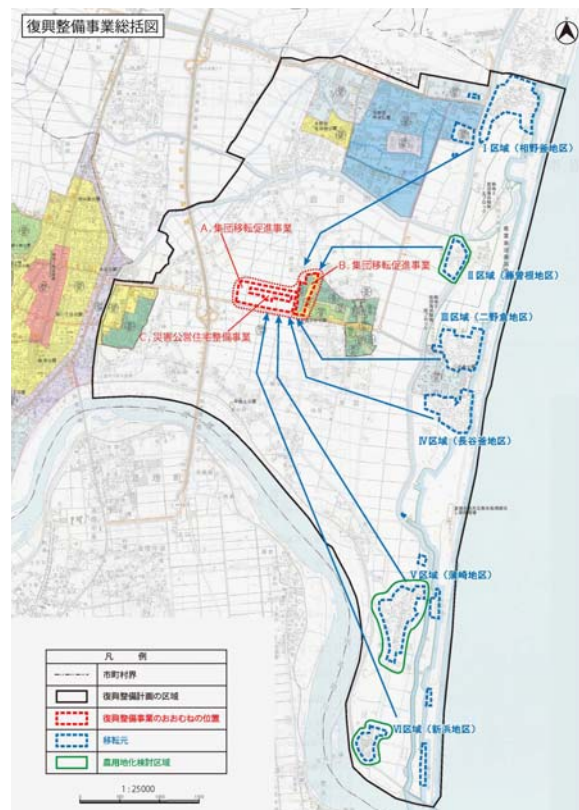
宮城県岩沼市 - 玉浦西地区 -

◆復興まちづくりの考え方

- 地域コミュニティを尊重したコンパクトなまちづくり

◆調査選定理由

- 大規模な集約型防災集団移転 (6地区の集約)
- 住民の同意率が高い大規模な集団移転
- 国土交通大臣同意 (平成24年3月30日)
防災集団移転促進事業の一番早い工事着手 (平成24年8月)



岩沼市復興整備計画 平成24年3月30日

◆復興まちづくり推進のポイント（初動対応）

- 被災地の立地
被災6地区は沿岸部に立地していることから、集落内の全ての家屋が同じ被災（全壊）を受けている。
- 漁業者がいない沿岸集落
被災集落には漁業者がいないため、海に生活の糧を求める必要がない。
- 6地区代表者会での意思決定
震災直後（平成23年4月）から町内会長や区長を中心とする代表者会が始まり、避難所や仮設住宅で機能発揮。
移転候補地の検討や候補地の絞り込みなど集団移転の進め方を意思決定。
- 旧玉浦村としての一体感
被災地区は、合併前（昭和30年）の旧玉浦村であり、小・中学校は一つの学区。
旧玉浦村の中心部に移転し、「玉浦西」の名称を用いる。

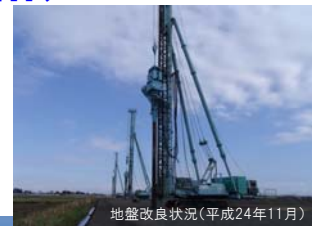


6地区代表者会 開催状況

3

◆復興まちづくり推進のポイント（計画・事業段階）

- スピード感のある対応（目標は平成25年度末）
平成23年11月に移転候補地を決定。
用地交渉を開始し、平成24年6月の段階で用地取得。
地盤改良の時間（1年間）を活用してまちづくりを検討。
- ワークショップによる支援
防災集団移転促進事業の国の制度が固まる前から、大学の支援によるまちづくりワークショップで復興プランを描き住民の不安を解消。



地盤改良状況(平成24年11月)



造成状況(平成25年1月)



大学の支援によるまちづくりワークショップ 開催状況

4

◆復興まちづくり推進のポイント（計画・事業段階）

○まちづくり検討委員会

まちづくりの方針、土地利用、画地選定、公共施設配置、地区計画は、「玉浦西地区まちづくり検討委員会」で決定。

メンバーは、6地区の代表者3名と学識経験者で構成。

代表者の選定 町内会長・区長：避難所や仮設住宅での中心的な役割

女性：地域のつながり重要な役割

40歳以下：次世代のリーダー（持続可能なまちづくりのため）



玉浦西地区まちづくり検討委員会 開催状況

5

◆復興まちづくり推進のポイント（総括）

○被災6地区の従来からのコミュニティを仮設住宅の段階から活かす。

○旧村でのまとまりを活かした6集落を1箇所へ集団移転

○専門家の支援によるワークショップが機能

○復興に対する意欲につながる住民主導型のまちづくり

○制度が決まる前からの先行的な行動
→ スピード感をもった対応

6